



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST

とやまワイズメンズクラブ 2021年2月号ブリン

主 題 2020-2021 年度：国際・アジア太平洋地域区・部

クラブ会長主題「リボーンとやま、あらたな第一歩」会長 清水 淳

- ・国際会長主題：Trust in the river of life (命の川を信じよう) 会長 Jacob Kristensen (デンマーク)
スローガン：Values, Leadership and Extension (価値観、リーダーシップ、エクステンション)
- ・アジア太平洋地域会長主題：Make a difference (変化をもたらそう)：会長 David Lua (シンガポール)
スローガン：INSPIRE (奮い立たせよう)
- ・西日本区理事主題：“Let's do it now!” 西日本区理事・古田裕和 (京都トゥービー)
副題：“2022 に向け誇りをもって、All is well”
- ・中部部長主題：“知らせよう！ワイズの奉仕活動を” 部長・早川政人 (名古屋グランパス)

日 時：2021年2月8日(月) 18:00~20:00

会場：YMCA 駅前センター (7階 Ys さくらカフェ)

例会プログラム

18時00分 例会開始 司会：島田 茂

開会式 1) 開会点鐘 2) ワイズソング 3) 聖書朗読 4) 祈祷 5) 清水会長挨拶

18時15分 卓話：「まぜこぜグループホームへの思い」 スピーカー：村上 隆さん

(NPO 法人文福、富山生きる場センター等に所属し、NPO 法人ぴーなつつ運営委員)



19時15分 報 告

1) 活動の報告と今後の活動 3月8日(月)18時 堤町センター予定

内容：1. リーダー会活動紹介報告 2. プログラム計画 3. 会計中間報告

2) YMCA 報告 3) ハッピーバースデイ 4) ニコニコ BOX

19時55分 YMCA の歌 閉会点鐘 20時00分 閉会

【12月第1例会出席報告】 「高齢者介護事業の現状と課題」 スピーカー：城石芳人さん

日 時：2020年12月14日(月) 18:00~20:00 富山 YMCA 堤町センター2階スタジオ (敬称略)

出 席：清水淳会長、青島明生、池田通則、内山政子、小泉宗政、城石芳人、菅原美穂子、中島完一、橋本順子、
中川喬之、島田 茂 ゲスト：高道俊彦、村上 隆 以上13名 (出席率61%)

欠 席：青山 仁、川瀬映子、高松朱音、舟崎優満、水野 績、水野智恵子、松浦正樹、吉川夕佳 以上8名

・YMCA 報告 12月(中川ワイズ)

①チャリティクリスマス 二番町教会員 子ども70名+保護者40名 110名参加

②Amazon みんなで応援プロジェクト

③カレンダー 年末の冬季スキーキャンプは中止 リートレ 15名 1月に一泊 1回

***1月例会は、新型コロナの感染予防と大雪のため例会は中止にしました。**

★緊急告知：神保勝己前総主事(現在熊本 YMCA 副総主事)が来県

2/13(土) 19時~20時半 於) Ys さくらカフェ 熊本豪雨支援活動報告講演会

聖書 ルカによる福音書 8章 26～39 節

イエスが陸に上がられると、この町の者で、悪霊に取りつかれている男がやって来た。この男は長い間、衣服を身に着けず、家に住まないで墓場を住まいとしていた。イエスを見ると、わめきながらひれ伏し、大声で言った。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。頼むから苦しめないでほしい。」イエスが、汚れた霊に男から出るように命じられたからである。この人は何回も汚れた霊に取りつかれたので、鎖でつながれ、足枷をはめられて監視されていたが、それを引きちぎっては、悪霊によって荒野へと駆り立てられていた。イエスが、「名は何というか」とお尋ねになると、「レギオン」と言った。たくさんの悪霊がこの男に入っていたからである。そして悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、イエスに願った。ところで、その辺りの山で、たくさんの豚の群れがえさをあさっていた。悪霊どもが豚の中に入る許しを願うと、イエスはお許しになった。悪霊どもはその人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、おぼれ死んだ。

この出来事を見た豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。そこで、人々はその出来事を見ようとしてやって来た。彼らはイエスのところに来ると、悪霊どもを追い出してもらった人が、服を着、正気になってイエスの足もとに座っているのを見て、恐ろしくなった。成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれていた人の救われた次第を人々に知らせた。

そこで、ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたいと、イエスに願った。彼らはすっかり恐れに取りつかれていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰ろうとされた。悪霊どもを追い出してもらった人が、お供したいとしきりに願ったが、イエスはこうってお帰しになった。「自分の家に帰りなさい。そして、神があなたになさったことをことごとく話して聞かせなさい。」その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとく町中に言い広めた。

12月14日(月)「高齢者介護事業の現状と課題」スピーカー：城石芳人さん



社会福祉法人富山聖マリア会常楽園は、70名の利用者で職員は70名、シフトで働いているので、朝晩、中番、遅番、夜勤3人体制で利用者を見ている。極めて大変な仕事。高齢者の生活を守っていく。お一人お一人の個性を尊重しながらケアをする。看取りの方が17名いらっしゃる。ご家族と施設でなくなっても構わないということに同意されている人々。医療的にはケアは施すことができない。長い方では10年くらい看取りのからもいるし、一年以内で亡くられる方もいらっしゃる。

今、若い方では60代の方もいらっしゃる。平均的には10年間くらい在園される。現在、研修がコロナでできず、また、職員の確保が極めて難しい。定員では40名という介護士養成専門学校・短大でも在籍率は5割を切っている。その為、介護士のなり手がいない。職員で介護福祉士の資格を持っている人は半数程度で、他は無資格である。経験があることは必要だが、介護福祉士の資格の無い方では安全の確保に不安がある。技能実習生と特定技能実習生の制度もあり、タイ2名、フィリピン1名の方が働いている。現在はミャンマーから2名の技能実習生の応募者があり、招く予定にしているが、新型コロナのため、出国もできず、日本側も入国を受け入れられない。すでに、1年以上待ち続けている。ようやくビザは下りた。3日間の講習を受けてスマートカード(ミャンマー独自の海外労働許可証)を受けるのであるが、待機者が数千人おり、なかなかスマートカードを受給できない。ようやく来年2人の受け入れが可能となる予定である。語学のレベルも段階あり、日本語能力試験3級(N3)では日常会話ができるが介護の専門用語や漢字ができない場合がある。人材確保は、介護事業運営上の最大の課題。現在、全国老人福祉施設協議会を通して行政と対応策を検討している。